

本節では、市町村へのアンケートの今後の活動に関する自由記述についての集計の結果を明らかにする。まず、市町村における今後の活動について、続いて今後受けたい研修の内容について、そして母子保健分野の支援について保健所に希望することについてである。

尚、回答内容は自由記述のため、複数回答や長文の記述もあった。したがって、集計のために大きく項目別に分けて、市町村の今後の活動に関する傾向を明らかにすることを試みた。大きく分けた項目の中で、さらにどのような活動を考えているのかを中心に、分析を行った。

#### 今後の活動について

アンケート回答者数 983 名の内、この欄への記入者は半数以下の 411 名であった。項目別での集計の結果、一番多かったのは「子育て支援」、次に「連携・システム作り」、そして「思春期教育」、「母子保健計画の作成・評価」、「虐待予防」、「生活習慣予防」、「健診」の充実とフォローアップという順位であった。

##### ①子育て支援

特に育児不安に陥っている母親のために、仲間作りの支援したいといった回答が多かった。単に楽しく子育てをやってもらうためではなく、核家族化が進む中での母子の孤立化や虐待などの社会問題を掲げ、その予防も視野においた支援活動を考えている。各機関との関係の中で誰もが安心して子育てできるまちづくりを目指す様子が記載事項からうかがえた。また、母と子だけでなく、両親、父親、祖父母を対象とした育児教室や地域の人々との交流会を開きたい、現在実施中の教室をより充実させ魅力あるものになりたいといった回答も少数あった。

##### ②連携・システム作り

特に小・中・高校との連携を希望しており、次に回答の多い思春期教育や虐待予防を効果的に実現するためには非常に重要であると思われる。学童期や思春期の青年との関わりをふまえての連携が主であるが、住民のライフサイクルを通じた保健・福祉・医療・教育・労働などの分野とのシステム化の構築を考えている回答もあった。近年の大きな社会変化の中で、保健事業を通しての早期発見と適切な対応を、市町村でも考えられている。

### ③思春期教育

中でも性教育が多かった。ピルや避妊について、10代の妊娠について、父親・母親になるための教育などに取り組みたいという記載があげられていた。また、こころの問題なども多く、思春期特有の変化についてのサポートを考えていた。その他では、赤ちゃんとふれあいや福祉体験、疾病予防などの回答もあった。

### ④母子保健計画の作成と評価

健康日本21、健やか親子21の概念を念頭に、計画策定および事業を展開したいといったものや、住民の声を反映できるよう工夫し、新しい取り組みを検討したいという記載が多くみられた。

### ⑤虐待予防

予防活動や対応のためのシステム作り、また地域全体での取り組みを考えている市町村が多くみられた。すでに連絡協議会を行なっているところもあり、虐待へのバックアップの強化に努めようとしている様子がうかがえた。また、虐待予防を視野においた臨床心理士の育児相談や妊娠中から母性を高めていくような教室作りを行っている事例もあげられ、この問題の深刻さがうかがえた。

### ⑥生活習慣病予防

子ども対象が主であり、早期予防や肥満対策が目的とされている。学校保健と連携して調査を行ったり、血圧の測定や生活習慣の見直し、食育などで改善をはかりたいとする回答がよせられていた。

### ⑦健診の充実

精度を上げていくことやフォローアップがもっとも多かった。その中で、乳幼児健診後のフォローアップ体制の確立、あるいは就学までに新たに健診の機会を設けたいという記載もあった。また、結果をまとめるために、統計処理をして住民の健康状態を把握したいという記載もあった。

### ⑧調査研究

調査研究の内容はさまざまであった。食生活、自主活動グループ、住民の健康に対する意識、住民ニーズ、母親のこころの問題などである。それらを事業内容の変更や組み替えのためにベースとしたいという記載もあった。

#### ⑨こころの問題

乳幼児や思春期、母親などの対象を限定したものや、子どもや妊娠中～育児ノイローゼ～虐待～少年非行～閉じこもり～うつなど、生涯にわたるこころのケアについての活動の取り組みを記載していた。

#### ⑩心身障害者の支援

グレーゾーン児の発達支援システム、障害児と健常児の交流、親子教室などが記載されていた。健診などにより、発達支援の必要な子どもが増えているということも数名が記載していた。

#### ⑪歯科関連

はみがき指導や虫歯予防の教室、指導の指針作成などのないようがあり、乳幼児や学童期など、早期の対策の取り組みを考えている。

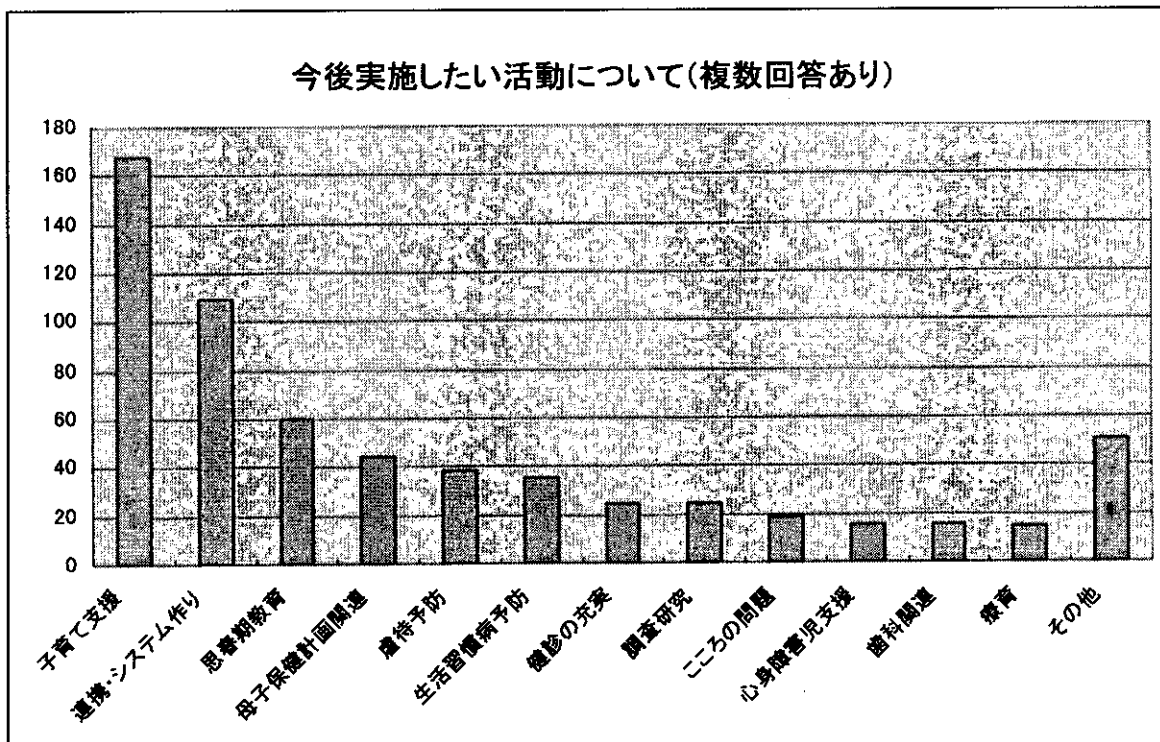
#### ⑫療育

療育指導目的のフォロー教室の取り組みやその内容の充実などへの取り組みなどがあつた。

この他では、外国人母子支援、情報提供、自主活動支援、更年期対策などの回答が少数であったが記述されていた。

#### まとめ

今後の活動では子育て支援、連携・システム作り、思春期教育・母子保健計画の見直し、虐待対策などが多くあげられていた。子育て支援や思春期教育、虐待対策などは、地域で必要とされている事業であり、市町村でも力を入れやすい部分である。そして連携・システム作りはそれら事業を効率よく円滑に行うために重要であるといえる。しかし、学校やその他の機関などとの連携作りはスムーズにいかないことが多いとみられ、計画したくても事業が効率的に行われるのは難しい状態にあるといえる。とはいえ、中には各機関の理解を得て、既に取り組んでいる市町村も少数ながらみられている。容易にあきらめないで、地道に取り組み続けることも必要であろう。



#### 今後受けたい研修について

アンケート回答者数 983 名のうち、記入者は 1 / 3 以下の 301 名であった。受けたい研修の項目別集計結果は、こころの問題がもっとも多く、以下は虐待防止・対策、育児支援、思春期教育と続く。

##### ①こころの問題

子ども・思春期・更年期など各ライフステージにおける問題点や、その対策方法としてのカウンセリング技術を学びたいという内容が記載されていた。また、閉じこもり・育児不安を持つ母親への対応方法なども必要としている。

##### ②虐待

乳幼児や児童への虐待予防・早期発見・対応、また関係機関との役割分担や連携などの研修を希望している。ことに虐待に関しては、ケースの検討や親への対応の仕方など、細かい部分までの研修をが望まれている。

##### ③育児支援

家族の形や育児の状況が多様化している中で、育児不安を抱える母親への支援方法、育児サークルの支援についての研修を受けたいという内容が多かった。個々の家族をどう理解し支援していくか、その判断方法や母乳育児に関するものやマタニティビクス・親子ビクスなどの実技指導の研修などもあげられていた。

#### ④思春期教育

思春期保健、とりわけ小・中・高校生への性教育についての研修を希望していた。また最近の思春期の若者たちの実態やこころの問題についても知りたいという回答もみられた。

#### ⑤発達チェック

言語・運動機能のチェックポイントやフォロー方法を知りたいという記載がされていた。見分け方や関わり方について、どのような点に注意して観察したいのか、また身体全体の発達の中での結びつきや生活との関係を知りたいという記載者もいた。

#### ⑥事業の実践および評価

母子保健事業の計画・策定・評価、PPM による事業の実践法などがあげられていた。事業の実施に促したものの、モデル事業の取り組みについてなど、今後の活動に向けて実用的な研修を望んでいる。

#### ⑦更年期対策

保健対策が取り上げられていたが、その特徴や支援方法についての研修を望んでいる。先述したこころの問題での記載者の中に、特に更年期に焦点をあてたいとする回答者も数名いた。

#### ⑧最新情報提供

先駆的事业に取り組んでいる市町村、施設や家族会、最新医療、最近の母子のあり方などを知りたい、あるいは他市町村との情報交換の場を作って欲しいという内容もあった。

#### ⑨生活習慣予防対策

子どもの頃から生活習慣予防について、検査データの処理、フォローの仕方、生活リズムが身体に及ぼす影響、健康教育などについて研修を希望していた。

#### ⑩健診の充実

心身の異常の早期発見やフォローアップ、うまく話を聞き出す面接技術など、効果的で実用的な健診の進め方の研修を希望している。

⑪心身障害者支援

発達程度や法的根拠を含む障害児への理解について、また LD・ADHD の子どもへの対応の仕方、親への支援法などがあげられていた。

⑫アレルギー疾患

対策法や新しいアレルギーの知識に知りたいといった内容であった。

⑬健やか親子 21

内容をもっと詳しく知りたい、あるいは健やか親子 21 に関する町独自の統計の取り方、まとめ方、活動をしていく上での具体的な指針に関する研修をあげていた。

⑭母子保健活動

最近の動向や過疎地域における活動方法の研修を希望していた。

⑮療育

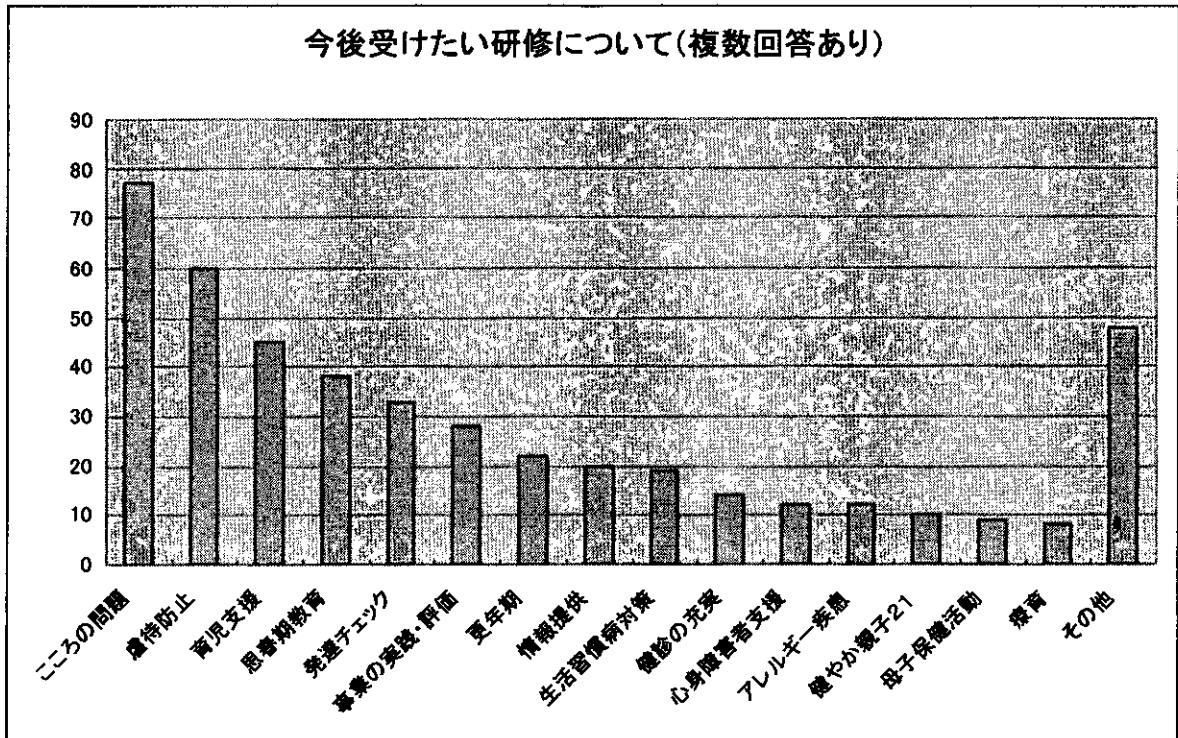
あそびの教室など療育教室の方法、関わり方や支援方法をあげていた。

その他では連携・システム作り、性・エイズ・STD 教育、歯科関連などの研修を受けたという記述がされていた。

まとめ

今後受けたい研修については、こころの問題、虐待防止、育児支援、思春期教育などが多くあげられていた。これは最近マスコミでも取り上げているさまざまな問題を反映しているといえる。特に虐待は今後の活動でも上位に取り上げられていたが、育児不安との関連も大きく、地域での問題も増加しているとみられ、早急の対応が求められているためであろう。地域住民の問題解決のために、市町村保健婦への研修の早期実施が必要であるといえるだろう。

今後受けたい研修について(複数回答あり)



母子保健分野の支援について保健所に希望することについて

アンケート回答者数 983 名のうち、記入者は全体の 1 / 3 強の 367 名であった。保健所に希望することのもっとも多かった回答は各種事業の開催で、続いて情報提供・交換、連携・システム作り、専門職員の設置などが続いている。

①各種事業の開催

市町村では対象者が少ない事業や専門的な分野に関するものを広域で実施してもらいたいという希望がもっとも多かった。特に事例の少ない多胎児や障害児、難病、精神、外国人母子などを希望している。住民のニーズも多様化しているため、市町村側は保健所の積極的な事業の開催を望んでいる。

② 情報提供・交換

専門的な知識・データの提供、個々のケースにおけるもの、県内や他府県の状況、母子保健の最新情報などを知らせて欲しいという希望があった。幅広い情報を収集し、情報交換の場を定期的に設けるなど、速やかに提供をすることを望んでいる。

### ③連携・システム作り

連携・システム作りの方法論や実施の際の協力や支援を保健所に行って欲しいという内容が多かった。具体的には療育や虐待対策における体制作りをあげていた。事業を円滑に行なうためにも、連携・システム作りは重要な点であり、保健所のバックアップが求められている。

### ④専門職員の設置

特に心理士の設置の希望が多かった。育児不安やこころの問題、虐待などに対応するためである。また、健診での診断やフォローアップを中心に地域との関わりを強化するために、医師や歯科医師、歯科衛生士などの専門職の市町村への派遣も望まれている。

### ⑤マンパワーの派遣

市町村の人材不足を理由に、事業実施や健診時での保健所の定期的人的支援が望まれている。介護保険制度導入のために、母子保健分野が手薄になっている状況がうかがえる。

### ⑥事業・計画などのアドバイス、指導、協力

事業計画や評価方法についての指導やアドバイスをしてもらいたいという内容が多かった。具体的には全国レベルから見た市町村の問題点や課題の提言、他市町村との比較の上でのアドバイスを望んでいる。また、アドバイスや指導のみならず、企画の段階から一緒に考え、共催したいという内容もあった。

### ⑦研修の企画と実施

専門的知識、最新情報の普及のため、研修会や担当者会議の実施を希望している。母子保健や健診に関するものなども回数を増やして欲しいという意見もあった。

### ⑧市町村における事業への参加

市町村の事業にスタッフとして入り住民と直接関わる場を持ってもらいたい、といった意見や、虐待児や障害児へのフォローや体制整備についての希望もある。保健所との関わりを強化したいということからと思われる。

### ⑨調査研究

県や国の事業評価に結びつくようなもの、母子保健統計の分析や資料の作成、またハイリスク児の出生状況、発育経過の市町村別データ分析などが望まれている。市町村の



今後の活動のために、保健所の幅広い調査研究が期待されている。

#### ⑩期待なし

法改正以後、保健所の市町村への支援が後退しているため、期待できない相手を求めるより自分たちで充実させる、また、保健所スタッフが忙しそうなので相談・支援・依頼を遠慮しているということが記載されていた。

#### ⑪市町村の実態把握

市町村に出向いてもらい、実状やニーズを把握してもらいたい、その前提として市町村に合った計画やシステム作りの支援の要請があり、市町村への理解を示してもらうためには保健所に出向いて欲しいというものである。

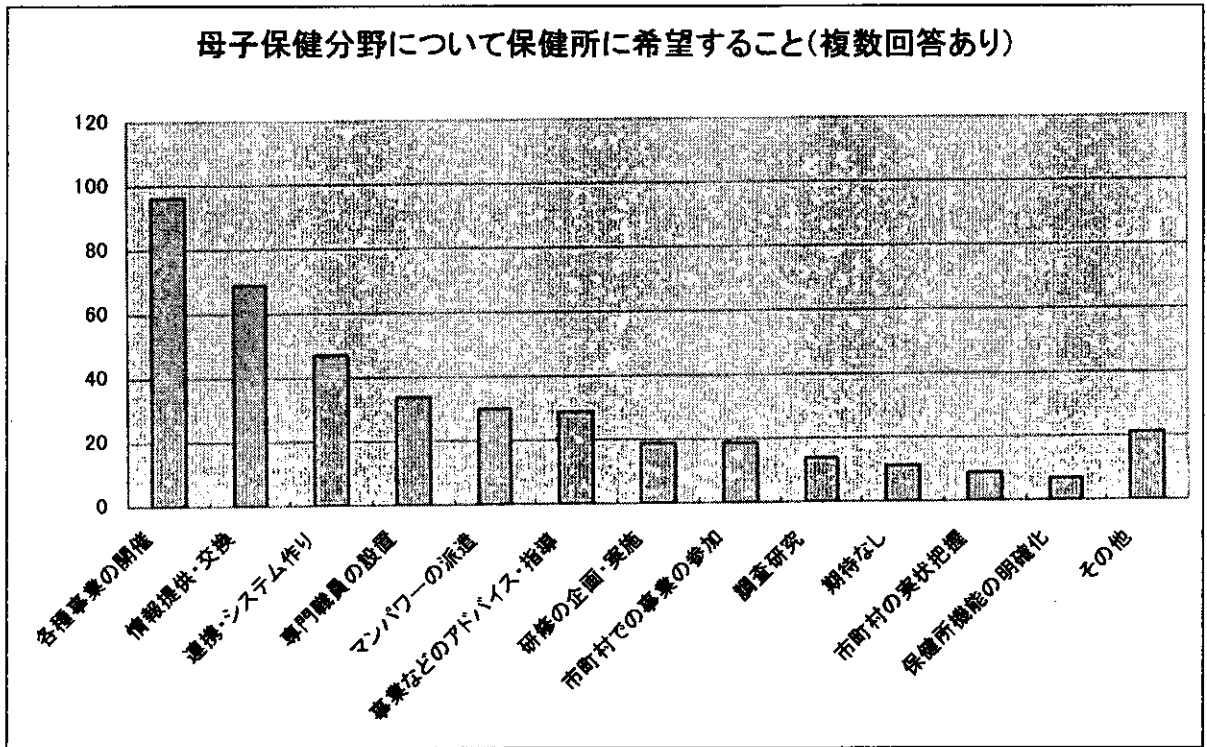
#### ⑫保健所機能の明確化

保健所の業務内容が不明確のため、どのような支援を希望してよいかわからないといった内容が多く、現在市町村と保健所との連携が滞っている状況がうかがえた。役割分担を明確にすると効率のよいサービスが提供できるのではないかとといった内容もあり、本来は保健所との連携を望んでいる様子がみられる。

その他では保健所の担当者の教育を希望、現在協力中、専門知識をもっと教えて欲しいなどであった。

#### まとめ

保健所への希望については「各種事業の開催」がもっとも多かった。市町村で対応するにはニーズの少ないもの、専門分野のものなど、保健所で広域的にカバーしてもらうことで効率化がはかれるといえる。「期待なし」や「保健所機能の明確化」など保健所への不満的な意見もみられたが、市町村は決して関係性が薄いままでよしとしているわけではなく、保健所の積極的な関わりを求めている。保健所の専門分野との連携をより深めることで、地域住民のニーズに応えることや、充実した事業を実施できることが可能となるゆえ、保健所と市町村の連携の強化が望まれる。



**調査結果から**

以上が市町村における今後の活動に関する集計結果である。これらの回答の傾向としては、今後の活動については、子育て支援・思春期教育・虐待対策など、地域で必要とされ、市町村でも力を入れやすいと思われる活動への取り組みを考えていた。今後受けたい研修では、こころの問題・虐待対策・育児支援など近年急増している問題で、早急な対応を要する部分であるといえる。そして保健所に希望することは、市町村だけではニーズの少ないもの・専門分野など広域的なカバーを必要とする事業の開催などであった。

自由記述では、マンパワー不足や保健所との連携の薄さを嘆いている記載もあった。市町村は現状で手いっぱい、これ以上対応できる余裕はないという危機的な様子も記載内容からうかがえた。これらを解決し、効果的な活動へ取り組んでいくには、長期的に忍耐強く取り組まなくてはならないだろう。

市町村の機能には長所短所があり、保健所もまたしかりである。そのような点を両サイドからうまく見極め、互いにフォローアップして、地域における今後の活動展開につなげていくことが、望まれる。

# 母子保健分野における保健所の市町村支援に関する調査

厚生省厚生科学研究健康科学総合研究事業  
『保健所における母子保健活動のあり方に関する研究』

主任研究者 宮里和子 (北里大学看護学部)

分担研究者 藤内修二 (大分県佐伯保健所)

守田孝恵 (国立公衆衛生院)

尾崎米厚 (鳥取大学医学部)

柴田真理子 (東京都保健科学大学)

福島富士子 (国立公衆衛生院)

この調査は、地域保健法施行後、市町村への母子保健活動の委譲により仕事の内容が最も大きく変化したと考えられる都道府県型保健所における母子保健活動分野における役割を、市町村支援の観点で調査、分析するためのものです。これは、わが国の今後の母子保健活動のあり方を提案していくための重要な調査です。昨年度は全国の都道府県型保健所に対して保健所の実施している母子保健活動の実態と市町村支援の実態を調査しました。本年度は、その回答保健所の管内市町村に対して郵送調査を実施することになりました。

お忙しい時期に誠に恐縮ですが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。ご回答いただきました内容については市町村名、保健所管内名を公表するようなことは一切いたしませんので、ありのままに回答していただければ幸いです。

なお、調査結果はご協力いただいた全ての市町村に報告書としてお届けする予定にしております。

## 調査票記入の注意

1. 該当する選択肢一つだけに○をつけてください。
2. その他の場合には事業名をご記入ください。
3. 数字を記入する場合0のときも0と記入してください。
4. 特に力を入れている事業に関する資料がございましたら調査票の返信時に添付していただくとありがたく思います。
5. 調査票のご記入後1月末日までに返信用封筒を利用して返送願います。

調査に関するお問い合わせ  
国立公衆衛生院 公衆衛生看護学部  
福島富士子  
TEL 03-34417111(314) FAX 03-3446-5383



## 2. 乳幼児保健

	1. 保健所で実施	2. 市町村単独で実施	3. 保健所の支援で実施	4. 実施・支援はない
1) 乳幼児健康診査 (3～4ヶ月児)	1.	2.	3.	4.
2) 乳幼児健康診査 (6～7ヶ月児)	1.	2.	3.	4.
3) 乳幼児健康診査 (9～10ヶ月児)	1.	2.	3.	4.
4) 乳幼児健康診査 (1歳児)	1.	2.	3.	4.
5) 乳幼児健康診査 (1歳6ヶ月児)	1.	2.	3.	4.
6) 乳幼児健康診査 (3歳児)	1.	2.	3.	4.
7) 新生児訪問指導	1.	2.	3.	4.
8) 未熟児訪問指導	1.	2.	3.	4.
9) 乳幼児訪問指導	1.	2.	3.	4.
10) 育児学級・育児教室	1.	2.	3.	4.
11) 発達相談	1.	2.	3.	4.
12) 遊びの教室 (発達指導)	1.	2.	3.	4.
13) 身体障害児の療育指導	1.	2.	3.	4.
14) 慢性疾患児の療育指導	1.	2.	3.	4.
15) 喘息・アレルギー教室	1.	2.	3.	4.
16) 外国人母子支援事業	1.	2.	3.	4.
17) 乳幼児歯科保健事業	1.	2.	3.	4.
18) 虐待対策 (調査・予防含む)	1.	2.	3.	4.
19) 乳幼児・学童の生活習慣病対策 (肥満を含む)	1.	2.	3.	4.
20) 未熟児教室	1.	2.	3.	4.
21) 多胎児育児教室	1.	2.	3.	4.
22) 乳幼児事故防止	1.	2.	3.	4.
23) その他 ( )	1.	2.	3.	4.
24) その他 ( )	1.	2.	3.	4.
25) その他 ( )	1.	2.	3.	4.

## 3. 地域活動事業、その他

	1. 保健所で実施	2. 市町村単独で実施	3. 保健所の支援で実施	4. 実施・支援はない
1) 母子保健推進員活動	1.	2.	3.	4.
2) 母子愛育班活動	1.	2.	3.	4.
3) 自主グループ活動	1.	2.	3.	4.
4) 健康診査などの精度管理	1.	2.	3.	4.

Ⅲ. 市町村からみた保健所の支援の実態についてお尋ねします。該当する項目を○で囲んでください。

	1. 保健所の支援なし	2. 企画を支援	3. 事業実施のためのマンパワー支援	4. 評価を支援	5. 情報・データ提供	6. システム作り支援
1) 市町村母子保健計画の策定	1.	2.	3.	4.	5.	6.
2) 市町村母子保健計画の評価	1.	2.	3.	4.	5.	6.
3) 心身障害児の療育システム確立	1.	2.	3.	4.	5.	6.
4) 慢性疾患寺領育システム確立	1.	2.	3.	4.	5.	6.
5) 専門的業務に関する事業の支援 事業例 ( ) ( ) ( )	1.	2.	3.	4.	5.	6.
6) 職員を対象とした研修(母子関係)	1.	2.	3.	4.	5.	6.
7) 調査・研究	1.	2.	3.	4.	5.	6.
8) 市町村母子保健連絡協議会	1.	2.	3.	4.	5.	6.
9) その他 ( )	1.	2.	3.	4.	5.	6.
10) その他 ( )	1.	2.	3.	4.	5.	6.
11) その他 ( )	1.	2.	3.	4.	5.	6.

Ⅳ. 課題

保健所との母子保健活動の協働の問題点についてお答えください。

	1. そう思う	2. そう思わない
1) 保健所は市町村の母子保健の実状を知らない	1. そう思う	2. そう思わない
2) 保健所は市町村スタッフのニーズを知らない	1. そう思う	2. そう思わない
3) 保健所は専門的技術・知識が足りない	1. そう思う	2. そう思わない
4) 保健所は母子保健統計の分析が十分できていない	1. そう思う	2. そう思わない
5) 保健所スタッフと一緒に事業ができない	1. そう思う	2. そう思わない
6) 保健所は市町村事業の企画に関わっていない	1. そう思う	2. そう思わない
7) 保健所は母子関係の独自事業を実施すべきである	1. そう思う	2. そう思わない
8) 保健所の母子保健活動の予算が足りない	1. そう思う	2. そう思わない
9) 保健所の母子保健活動のマンパワーが足りない	1. そう思う	2. そう思わない
10) 保健所は関係機関との連携を推進してほしい	1. そう思う	2. そう思わない
11) 将来保健所の母子保健活動はなくなりそうだ。	1. そう思う	2. そう思わない
12) その他 ( )	1. そう思う	2. そう思わない

V. 次の先駆的事業のうち、あなたの地域にニーズがあるかどうか、あなたが実施したいかどうか、実施が可能かどうか、実施の障害が何か、何があると実施でそうかについてお答えください。該当する番号に○をつけ、自由記載欄には文章を入れてください。

	ニーズがあるか	実施したいか	実施可能かどうか	実施に保健所の支援を希望するか	希望する支援の具体的内容
	1・大いにある 2・少しある 3・あまりない 4・全くない	1・是非やりたい 2・できればやりたい 3・やりたくない 4・既に実施中である	1・実施可能である 2・可能だが難しい 3・不可能である	1・希望する 2・希望しない 3・わからない	あれば自由に記載してください
モデル開発 外国人母子対策	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3	1 2 3	
モデル開発 多胎児対策	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3	1 2 3	
モデル開発 薬物関連	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3	1 2 3	
モデル開発 アレルギー疾患	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3	1 2 3	
モデル開発 こころの問題	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3	1 2 3	
モデル開発 子供の生活習慣病	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3	1 2 3	
モデル開発 更年期対策	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3	1 2 3	
モデル開発 性・エイズ・STD教育	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3	1 2 3	
モデル開発 虐待	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3	1 2 3	
モデル開発 その他 ( )	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3	1 2 3	

	ニーズがあるか	実施したいか	実施可能かどうか	実施に保健所の支援を希望するか	希望する支援の具体的内容
	1・大いにある 2・少しある 3・あまりない 4・全くない	1・大いにある 2・少しある 3・あまりない 4・全くない	1・実施可能である 2・可能だが難しい 3・不可能である	1・希望する 2・希望しない 3・わからない	あれば自由に記載してください
システムづくり 母子保健情報、 検診精度管理	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3	1 2 3	
市町村支援 母子保健計画 エンゼルプラン	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3	1 2 3	
市町村対象研修	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3	1 2 3	
調査研究	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3	1 2 3	

VI. 今後の活動についてお尋ねします。

今後展開したい母子保健活動の内容(事業、システムづくり、調査研究などなんでもけっこうです)についてご自由にご記入ください。

今後実施したい活動について



今後受けた研修の内容について

母子保健分野の支援について保健所に希望することを書いてください